

平成28年度 下山田小学校評価報告書

4(A)大変よい 3(B)よい 2(C)努力を要す 1(D)すぐに改善
 (※★昨年度比で10%以上の変化が見られたもの)

領域	項目	評価指標 ※()は昨年度の数値	達成状況			自己評価を踏まえた改善策	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
			H26	H27	H28				
組織運営	校内組織運営の充実	職員の協働体制を充実する。 (結果)少人数のため一人一役的になりがち。協働の意識は今後も高めていく必要がある。 [教員のAB評価]78%(94%)	4	4	3	◇ 三者会(校長・教頭・教務の話し合い)は、火曜日に定期開催…継続 ◇ 運営委員会・職員会議における提案文書の確実な事前提出に努める。 ◇ 分掌部による事前検討を確実に実施する。	○ 権威でなく情熱と愛情を持った教師集団になればと思う。	◇ よりよい児童の成長を目指し、管理職を中心に、全教職員で目標の共通理解を深めながら、取組を推進する。	
		PDCAのサイクル化によるマネジメントを行い、改善につなげる。 (結果)早期改善を意識した取組を進め、年度途中でも改善のための提案がなされている。 [教員AB評価]60%(87%)	3	3	2	◇ 学力テスト・朝のチャレンジタイムの持ち方など早期に改善に取り組んできた。来年度は、職員のメンバーが代わりうとも、これらの取組を継続していくこと。	○ Actionにつなげるためにも、前項の評価項目にある協働の体制づくりを生かしてはどうか。(取組や行事・授業改善等、職員の参画意識を高める)	◇ 各分掌で協働して、具体的な数値目標と照らし合わせながら、早期の改善サイクルを確立する。	
		学力向上プランの推進を図る。 (結果)部分的に課題はあるものの全職員で推進できた。 [教員AB評価]75%(100%)	4	4	3	◇ 基礎基本の定着、活用力の育成、自主学習の習慣化等に向けた重点的な取組の再検討と共通実践をさらに推進する。	○ 基礎学力の充実をお願いします。	◇ 左の改善策に加えて、担任外教員での話し合い等を実施し、全職員で、学力向上の取組を推進する。	
		保護者・地域の教育力を生かす教育活動の推進を図る。 (結果)これまでの地域との連携した行事は大切に受け継がれており、地域人材を活用した取組も増えてきた。 [教員AB評価]76%(60%)	2	3	3	◇ 保護者・地域の教育力の活用実績を整理し、効果的な活用の在り方を検討する。 ◇ 夏の補充学習における地域人材の活用を更に拡大する。 ◇ 「未来塾」への参加を奨励する。	○ 地域の素晴らしい人材を生かすのは大変と思いますが、是非実現してほしいものです。	◇ (左の改善策に同じ)	
		主題研修の充実の推進を図る。 (結果)2年後の研究発表に向け、新主題の取組を進めることができた。 [教員AB評価]88%(100%)	4	4	3	◇ 教員自身の育ちと若手教員の育ちを意識した研修の推進を図る。 ※平成29年度:学校給食研究発表会 ※平成28年～30年度:市研究指定委嘱(平成30年度:研究発表会)	○ 保護者も教師も、育て共に育つつもりで付き合わないといけないと思う。	◇ 下山田小学校の子ども達の成長に必要な手立てを見極め、研修の日常化を図るとともに、その中で、若手の教員の育成も推進する。	
		総合所見	「チームワーク」「フットワーク」「ヘッドワーク」の発揮を掲げ、取り組んできた。職員構成上、この学校に対する慣れ・知識や経験年数等に差があることから、個人の力に頼る部分も多くあったが、「皆で」という意識は、醸成され、また方策改善の即時性も高まっている。さらに、若手教員の育成を視野に入れた研修の工夫等も為されており、「下山田の子を、皆で育てる」という協働意識は高まりつつある。						

領域	項目	評価指標 ※()は昨年度の数値	達成状況			自己評価を踏まえた改善策	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
			H26	H27	H28			
教育課程・学習指導	「や」「やっ」「い」子	1 「学校は楽しい。」という子どもを育成する。(目標100%) 〈結果〉多くの児童が学校は楽しいと答えている。 〔児童AB評価〕 97%(95%) 〔教員AB評価〕100%(100%)	4	4	4	◇ 学校で過ごす時間を、楽しいと感じている児童は多いようだ。その細かな内容について分析しながら、本校としての強み・弱みを把握し、底上げを図っていく。	○ 下小は、先生が児童に目が行き届き、児童も先生に見守られているという安心感の中での教育が届いていると思う。 ○ 「学校は楽しい」=学力向上となるようにお願いします。	◇ 「学ぶ楽しさ」を感じさせる学習活動の工夫を図るとともに、学ぶことによる自己の成長を自覚させる取組を充実させる。
		2 縦割りで楽しく活動する。 〈結果〉縦割りグループでの活動を中心に、上級生が下級生を指導しながら、楽しく活動する姿が多く見られる。 〔児童AB評価〕 97%(89%) 〔教員AB評価〕 88%(82%)	3	3	3	◇ 本校の特徴であり、取組の柱でもあるこの縦割り活動について、そのねらいや成果を整理し直しながら、今後も継続して取組を進める。 ◇ 活動を通して、リーダーとしての上学年児童の心を育てていく。 ※縦割り活動…給食・掃除・遠足・運動会・スポーツ集会など	○ 下小ならではの取組なので、これからも継続してほしい。	◇ (左の改善策に同じ)
		3 「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子に育てる。 〈結果〉素直に言っている子が多くいる。 〔児童AB評価〕 95%(89%) 〔教員AB評価〕 67%(74%)	2	3	2	◇ 素直に言っている児童が多数をしめる。人間関係づくりにつながることで、今後も継続して指導をしていく。	○ 全学年への指導を続けながら、児童の意識をさらに高め、学校は楽しいにつないでほしいと思います。	◇ (左の改善策に同じ)
		4 自分から進んであいさつする子どもを育てる。(目標100%) 〈結果〉大きな声で気持ちの良いあいさつができる子は増えてきているが、自分から声を出すことに躊躇する子もいる。 〔児童AB評価〕 89%(84%) 〔教員AB評価〕 75%(65%)	1	2	3	◇ 児童主体の「あいさつ運動」の工夫・実施 ◇ 低学年児童への指導を重視し、早期の習慣化を促す。 ◇ 家庭とも連携し、児童の心的状況の把握やケアといった日常的な取組とも関連を図る。	○ 学校でできていても、社会(地域)ではできていない。家庭ではどうか、状況を見て指導してほしい。 ○ あいさつについて講師を招いての学習は、とても効果的。小・中でGTやよい講師・講演に関する情報交換ができれば、さらに取組が推進されると思う。	◇ 高学年への指導も充実させ、上級生としての自覚を高め、率先して範を示すよう意識付け実践させることで、学校全体の取組を推進する。
		5 呼び捨てをしないように心がける子どもを育てる。 〈結果〉折に触れ、子ども達に意識させてきたが、まだまだ、定着までは至っていない。 〔児童AB評価〕 78%(59%) 〔教員AB評価〕 75%(47%)		1	3	◇ 始・終業式等での意識付けだけでなく、日常的に折に触れて「呼び捨てしない」ことの意義や大切さについての指導を行うとともに、実践化を促す取組の工夫を図る。	○ 集団の中での個々の信頼関係を高める言動を意識させることが大切だと思う。	◇ 円滑な集団生活を送る上で必要なことを考えさせ、その一つとして大切さを捉えさせながら、互いを尊重する意識とつなでいく。
		総合所見	様々な集団による活動場面があり、自己・他者を意識する機会が多いが、刹那的な気分や言動が目につく場面がある。指導する側も、活動を通して人間関係づくりを推進していくことを意識することで、自分のことだけでなく、周囲を気遣ったり、指摘したりできる子どもを目指して取組を進めていきたい。 また、あいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言えない子の場合、心的なものや家庭的な背景がある場合も考えられるので、長期的な視点で指導していく。以前よりできたことは称賛し、意欲をもたせるようにする。					

領域	項目	評価指標 ※()は昨年度の数値	達成状況			自己評価を踏まえた改善策	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
			H26	H27	H28			
教育課程・学習指導	「ま」「ま」なぶ子	1 「学校での勉強は楽しい。」という児童を育てる。 〈結果〉楽しいという児童が増えてきた。 〔児童AB評価〕 91%(90%) 〔教員AB評価〕 83%(95%)	3	3	3	◇ 勉強を楽しんでいることを踏まえ、今後は、「やればできる」「分かった・できた」「もっとやってみたい」という実感を伴った楽しさを味わわせていく。 ◇ 基礎基本の問題を徹底することと併せて、思考力・判断力・表現力の育成に向けて、取り組ませる。	○ 児童のやる気を継続できるよう、楽しく育てて下さい。	◇ 成就感や達成感を味わえる学習活動を工夫する。
		2 自学に取り組む児童を育成する。 〈結果〉日常の声かけにより、自学に取り組む児童も増えてきている。 〔児童AB評価〕 85%(81%) 〔教員AB評価〕 82%(82%)	2	3	3	◇ 保護者の来校日にあわせて「自学の広場」を設置したり、各学級のモデルを掲示したりする取組をさらに充実させるとともに、自学の取り組み方について指導を繰り返し、児童の主体的な学びを活性化させる。	○ 取組の継続をお願いします。	◇ 自己選択・自己決定・自己実践の三原則をより意識させ、自分を高めるための勉強への意欲を高める。
		3 分かるまで繰り返して学習に取り組む児童を目指す。 〈結果〉定着までは、至っていない。 〔児童AB評価〕 83%(－%) 〔教員AB評価〕 73%(－%)			3	◇ 補充の場の確保とその徹底を図る。 ◇ 各自の課題を意識させ、その克服への支援を充実させる。 ◇ 取組のモデルの提示、研修の開催等、職員側の取組を充実させ、支援の日常化を促す。	○ 効率が悪いほど、いい教育が行われていると思います。	◇ 一人ひとりの課題を丁寧に見取り、個に応じた指導を徹底する。
		4 漢字検定や算数検定の合格を目指してがんばる子どもを育成する。 〈結果〉子ども達も努力すれば結果がでることを十分感じ取っており、合格を目指して意欲的に取り組んでいる。 〔児童AB評価〕 96%(95%) 〔教員AB評価〕 100%(100%)	4	4	4	◇ 漢字検定・算数検定ともに取組は児童の中に定着しており、学期末の検定に向けて計画的に練習に取り組ませ、意欲の継続化を図る。	○ シンプルな目標をもたせることで、モチベーションが上がると思う。小・中で同様の取組を推進できるとよいと思う。	◇ 子どもたちの努力しようとする意欲を持続させるよう、取組の工夫・改善を図る。
		5 辞書を活用できる児童を育成する。 〈結果〉年度当初に所持の状況を確認し、国語以外の授業でも活用を図るようにしている。 〔児童AB評価〕 67%(70%) 〔教員AB評価〕 53%(75%)		3	2	◇ 辞書を引くことによって得られるものやその楽しさを体験させる場を仕組む。(辞書を使ったゲームなど)	○ 中学校でも辞書の活用頻度は低い。先進事例を参考にしていってはどうか。	◇ 先進事例を研究し、辞書を効果的に活用させる具体的な方法を実践する。
		6 家庭で約束の時間、学習できる子どもを目指す。(目標80%) 〈結果〉個人差はみられるが、全体としては定着の方向に向かって見られる。 〔児童AB評価〕 81%(72%) 〔教員AB評価〕 70%(77%)	1	2	2	◇ 宿題の内容を見直すとともに、家庭学習の「方法」「大切さ」等、指導を継続・強化していく。 ◇ 「家庭学習のすすめ」(市教委作成)をもとに、家庭・保護者への啓発を図り、児童の家庭学習を支援する環境を整える。 ◇ 「自学広場」の実施方法を見直し、児童がより意識できるように工夫する。 ◇ 週末課題を充実させていく。	○ 児童の後ろにいる保護者に働きかけて、親力の協力が必要だと思う。	◇ (左の改善策に同じ)

	7 図書館の本をたくさん読む児童を育成する。 〔結果〕図書館の様々な取組に呼応して、本に親しむ様子が多く見られる。 〔児童AB評価〕 69%(72%) 〔教員AB評価〕 89%(73%)	1	2	4	◇ 現在の取組を継続する。 ◇ 図書司書の発想を生かした取組を実施する。 ※図書館の様々な取組:春・秋の「春・秋の図書館まつり(ブックトーク、お話クイズ、スタンプラリー他)」「読み聞かせ」等を通して、本に親しむようにしている。本年度は特に「うちどく」推奨期間を設定し、親子での読書の推進を図った。	○ 本離れが言われる中で、たくさんの取組が成果につながるように、さらに取り組んでほしい。	◇ 担任等による日常的な働きかけを、さらに充実させる。
総合所見	学校生活の中心としての「学習」を児童が楽しめる(学ぶ楽しさを味わう)ことは、学校として大きな課題である。 本年度、「学びが楽しい学校づくり」を掲げ取り組んでいるが、基礎基本の定着に関わる部分での達成感・成就感は持たせやすいが、思考・判断・表現の部分では、それらを十分に味わわせられていない。 現行の取組を土台としながら、さらに工夫・改善を重ね、全職員で子どもの学びを支援していく。						

領域	項目	評価指標 ※()は昨年度の数値		達成状況			自己評価を踏まえた改善策	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
		H26	H27	H28	H26	H27			
教育課程・学習指導	「たくましい子」	1 学校を休まないように気をつける児童を育成する。(目標90%) 〔結果〕全体としては、よくがんばっているが、冬場になると厳しい状況がある。 〔児童AB評価〕 94%(92%) 〔教員AB評価〕 89%(89%)			3	3	◇ 不登校「0」を目指し、取組を進める。 ◇ 登校状況を表彰する取組等を取り入れていく。	○ 不登校ゼロに向けた取組を、広く知らせていくとよい。	◇ 本校の取組を再度共通確認し、全職員による共通実践を進めるとともに、保護者や地域への発信も行う。
		2 元気よく外で遊ぶ子どもを育成する。(目標100%) 〔結果〕休み時間だけでなく、登校直後から、元気に校庭で遊ぶ姿がある。体力テストの結果も上昇傾向にある。遊びの固定化が見られる。 〔児童AB評価〕 93%(87%) 〔教員AB評価〕 100%(100%)	3	3	4	◇ 業間体育の内容・実施方法の工夫を行い、どの子どもも楽しんで体を動かそうとする雰囲気醸成する。(『スポコン広場』の活用等)	○ 朝、元気に校庭で遊ぶ姿は、ほぼ男子で、女子の姿が見えない。男女でできる雰囲気取組をしてはどうか。	◇ いろいろな外遊びを紹介し、遊びのバリエーションを広げてやることで、より多くの子ども達が遊べるようにする。	
		3 掃除の時間、一生懸命がんばる子どもを育成する。 〔結果〕縦割り活動も生かしながら、全体的にもよく頑張っている。 〔児童AB評価〕 94%(92%) 〔教員AB評価〕 67%(80%)	2	3	2	◇ 「させられる」意識から「自分たちの学校を自分たちできれいにする」という意識へと、心を育てるための指導との連携を図る。	○ 先生と一緒に取組まれることで、子ども達の意欲も高まっていると思います。	◇ 子どもたちだけでなく、教員も共に取り組みながら、学校全体の活動であることを意識づけていく。	
		4 給食は残さず食べる子を育成する。 〔結果〕給食を残さず食べることが習慣化され、頑張って食べている。 〔児童AB評価〕 98%(99%) 〔教員AB評価〕 100%(100%)	4	4	4	◇ ほぼ毎日「完食」。次年度は学校給食会の発表会実施という機会もあり、自校給食という利点を生かしながら、「食」に関わる指導の充実を図り、自己の健康を考えられるようにする。	○ 残さずに食べられるというのは素晴らしいことと思う。	◇ (左の改善策に同じ)	

教育課程・学習指導	「たたくましい子」	5早寝・早起きをして寝る時間を十分確保できる児童を目指す。 (結果)8割に満たない。 〔児童AB評価〕 84%(76%) 〔教員AB評価〕 73%(85%)	2	2	2	◇ 本年度の全国学習状況調査(6年生)でも、数値の低さが見られ、本校の継続する課題となっている。PTAの「新」家庭教育宣言の取組を有効活用しながら、保護者への啓発も進めながら、児童に対しては、その大切さを指導していく。(学習との関係、成長との関係など)	○ 親の生活に子どもを合わせるのではなく、子どもの生活に親が合わせてほしいと思う。 ○ 家庭環境が夜型になっている現在、保護者へその大切さを伝え、啓発を進めてほしい。	◇ アンケート調査等の結果と、そこから見取れる課題を、保護者に対して発信していく。
		6 朝ご飯を食べて、登校できる子どもを目指す。 (結果)全体的には食べてはいるが、食事の内容や食べていない子の存在をしっかりと見ておく必要がある。 〔児童AB評価〕 87%(90%) 〔教員AB評価〕 94%(92%)	2	4	4	◇ 朝ご飯の実態を詳しく把握し、朝食抜きや食事内容に問題がある児童の様子には、十分気を付けるとともに、「朝ご飯の大切さ」についての指導や「食育通信」などによる啓発を行い、保護者との連携を図る。	○ さらに家庭と連携して、子ども達の生活習慣の充実を図ってほしい。	◇ (左の改善策に同じ)
		7 安全に注意して登下校できる児童を育成する。 (結果)安全に注意して登校できているようである。 〔児童AB評価〕 99%(92%) 〔教員AB評価〕 82%(85%)	2	3	3	◇ 校区内には、事故が起こりやす箇所が多くある。定期的な点検を実施し、毎日の集団登校等についての指導に生かすとともに、交通安全教室・防犯教室や交通安全週間等の活用も図りながら、日常的に安全についての意識を喚起する。	○ 新一年生が入学しますが、一度親子で通学路を歩いてみるのも、安全につながると思う。	◇ 家庭への働きかけを工夫し、子ども達だけでなく、保護者の意識啓発を図る。
		総合所見 学校として、体力向上プランの共有・推進、業間体育の実施、コーディネーショントレーニングの活用などに取り組んできたことで、児童の体力・活動量には向上が見られる。一方で、「早寝・早起き・朝ご飯」「小メディア」「冬場の不登校解消」に向けた取組等、家庭との協力が必要な部分も多く残されており、保護者やPTAと連携して取組を推進していく必要がある。						